「これしかない」というこだわりが新たな市場を生む

時を経ることに深まる価値を創造

時を経ることに味わいとその価値を増していく古民家。これからは環境面からも、また日本の生活文化を守る点からも、古民家ビジネスは今後一層の成長が期待できると話す一般社団法人・熊本県古民家再生協会の太田理事長。事業の傍ら、古民家鑑定士、古財鑑定士取得セミナーを開催するなど、地元の古民家市場活性化に向けた啓蒙普及活動にも積極的に取り組む。エスプレッソVOL.7 Meets the spiritsでは、これまで見落とされていた貴重な資源として古民家ならびに伝統資材の新たな価値創造に取り組む太田理事長と、50年以上の時代の変化にも未だ色あせない価値を放ち続け、世界になお多くのファンを持つ英国クラシックバイクの、レストアスクール運営ならびに販売修理を手がけ、国内の英国旧車市場創造を目指すトラヴィスサイクルズの栗崎代表のお二人に、ジャンルを超えた互いの価値創造ビジネスにかける思い、これからの経営について語ってもらった。

取材協力／
熊本市中唐人町13 フランス料理店 塩胡椒

決して一括りにできない個性がある

太田　クラシックバイクって聞いていたんですが、新車と変わらないほど、いやむしろ磨きこまれて一層魅力的に見えますね。

栗崎　英国旧車をクラシックバイクと一括りにされていることが多いのですが、実は細かくカテゴリーが分かれていて、バイクの草創期のものをパイオニア、それ以降を各年代でベテラン、ビンテージ、クラシックと呼んでいます ちなみに今日乗ってきたバイクはクラシックの部類に入るもので、1940年代後半に発売されたものです。旧車はそれぞれに良さがあり、価値があります。決して一括りにできない個性があります。英国車のマニアは、バイクにのめりこむと、どうも古い方へ遡っていく傾向があるようです。

太田　古民家の場合は特にそんな細かい区分けはされていませんね。一般的には築60年以上のものを古民家と呼ぼうというルールがあるぐらいですね。実は古民家も、こちらのような明治時代の都市部で多い、住居と店舗が一体となった職住一体型の建物と、いわゆる農村民家とでは、同じ民家といってもずいぶん違います。当然時代背景、建っている地域の気候、風土により家の作りは様々です。バイク以上に細かい分類分けが必要かもしれませんね。

栗崎　実はクラシックバイクの世界で

も私のように英国車専門、または米国のハーレーの旧車専門と言うように実は細かく分かれていて、私は英国の旧車の修理、レストアにはそれなりの経験と自信がありますが、その他のバイクに対しては全く無知といっていいぐらいです。実際英国車以外には興味もありませんし。(笑い)

あれもこれもでは何もできない

太田　すごいこだわりですね。たしかにあれもできるこれもできるといっていたのではだれも信用してくれませんね。私も以前名刺の裏に、一体何屋さんか分からないほど、これも、あれもと営業内容を書き並べていました。でも古民家一本に絞ってからの方が、むしろ仕事が入るようになりました。やはり専門でやっているというスタンスが消費者に信頼感を与えるのだなと感じました。

栗崎　あれもこれもできますというのは実際は無理です。英国旧車のトライアンフというメーカーだけでも非常に奥が深いですからね。私は常にもっと完璧な整備ができるように心がけていますので、とてもほかのバイクに目を向ける余裕はありません。

普通に使えてはじめて価値あるものに

太田　バイクを修理する時は、忠実に昔のままに再現されるんでしょうか。

栗崎　もちろん基本的には作られた当時の状態に近づけられるよう整備しますが、現在の部品の方が優れて、しかも無理なく使えるものであれば使っていきます。古いから、希少価値があるだけではなく、バイクは実際キチンと走れなければだめだと思っています。通勤にも使えるぐらいのコンディションに仕上げてこそ意味があるという考えで整備しています。以前は取り敢えず走ればいいという整備の仕方や、外装だけをきれいに仕上げていた業者も多かったですね。私と同じ理念で英国車の整備を手がけている仲間たちとは、これまでの間違った整備から、もっと質の高い整備ができるよう技術を高めていこうと話しています。

太田　古民家もまったく同じですね。ただ古いだけなら何の価値もありません。現代人が住んでも快適だと思える住まいでないといけないと思います。基本的な骨組みは残しながら、現代の暮らしに会った仕様の住まいとしてリフォームする、あるいは柱や梁といった主要部材の一部を新築の住まいに使うといった方法が、今現在考えられる古民家の活用方法ですね。時々、古民家に住む方が増築の依頼をされる場合、伝統工法への理解のない業者が携わると、風通しや、基本的な構造の違いを理解しないまま工事をやってしまうため、増築した家も、母屋まで傷めてしまい、最悪数百年の風雪に耐えた古民家を壊してしまうこともあります。たいへん不幸なことです。

専門業者の強いこだわりが市場を創造する

栗崎　やはり人材の育成が大切ですね。

太田　私たちと同年代の大工は、もっと技術を生かした仕事をしたいと考えています。そのためにも多くの古民家再生工事を掘り起こして、実際仕事の機会を増やしていかなければと考えています。一方でそうした貴重な古民家が無為に壊されてしまわないよう現在古民家鑑定士の資格試験を全国で実施しています。全国共通の古民家の価値基準を定め、それを鑑定できる人材を育てることで、古民家のオーナーならびに一般の方々に価値あるものだという認識をもってもらい、ひいては安易な解体などで、貴重な木材が遺棄されることを防げると思います。結果的にはこうした試みが、市場を創造していくきっかけになると思います。

栗崎　私は、英国の旧車を輸入して、きちんと修理をほどこした車両を販売することが、市場を広げていくことになると考えています。そのためにも専門業者としてやっていくことが大事だと思います。国内市場に調子が良い英国旧車を増やしていくことが、私たちの仕事を生み出すことになります。英国車の整備、レストアの仕事を増やしていくためにも、ただ何でも良いから販売するというスタンスでは、結局市場が先細りになります。

皆が目を向けない場所にこそ大きな可能性が

太田　やはり一本に絞り込むことが大事ですね。住宅を新築する際、施主が以前住んでいた住まいの建具など、愛着のあるものを新しい家でも使ってほしいと言われることがあるんですが、たいていは工事が高くつくからなどと言って、面倒くさがって引き受けてくれないんですね。どこの住宅とも変わり映えのしない、大手メーカー製の建具を使いたがります。ようするに、面倒な仕事はしたくないというスタンスなんです。私に言わせれば、そうした面倒な仕事こそ利益を生む仕事だと思うんですが。皆が目を向けない場所にこそ大きな可能性が埋まっていると思います。

一般社団法人
熊本県古民家再生協会
理事長／太田 行雄
所在地／〒861-1104
熊本県合志市御代志1758-5
TEL096-242-4053
090-3074-9505
FAX096-242-4787

事業内容／
古材を使ったリフォーム
古民家の移築再生
古材、伝統資材の販売

プロフィール

太田 行雄

古民家鑑定士、古材鑑定士、伝統資財施工士
53年生まれ、福島県会津出身、80年結婚を機に熊本へ。
82年太田建設設立。200年住宅再生ネットワーク機構の代表である井上幸一氏の提唱する古民家を核とした伝統文化再生の運動に共鳴し、古民家事業に本格的に参入機に、10年、一般社団法人熊本県古民家再生協会を設立。古民家鑑定士、古材鑑定士。伝統資財施工士の資格取得のためのセミナー、試験事業を自ら展開。業界発展に奔走する日、趣味は歴史探訪。

プロフィール

栗崎 宏

76年生まれ、熊本市出身。食品メーカーを脱サラ後、4年間クラシックバイクの整備学校の講師として勤務の後、2008年4月より英国クラシックバイク販売・修理・整備スクールを運営するトラヴィス・サイクルズを熊本市平田町に創業、09年クリサキリノベーションオフィスス合同会社を設立。国内屈指の、英国製クラシックバイク整備技術とパーツ入手ルートを持つ。